

## 平成 20 年度事業計画

### . 事業方針

財団法人日本ゲートボール連合は、ゲートボールを各世代に普及することにより世代間の円滑なコミュニケーションを図り、国民が健全な社会生活を送れるよう環境整備をするとともにゲートボールを通して日本のスポーツ文化の向上を図るべく、各種の普及事業を積極的に実施している。

ゲートボールの愛好者は以前と比べれば確実に若年層に広がっており、世代間交流のツールとして重要な位置を占めるまでになったが、一般的には、ゲートボールは高齢者のスポーツというイメージが未だ強く、ジュニア層、ミドル層の愛好者の更なる拡大は大きな目標である。

このため、平成 20 年度においても各種の普及事業を引き続き実施する。

具体的には、親子いきいきランド、ゲートボール技能研修会などの普及事業を積極的に展開し、全日本世代交流ゲートボール大会、全国ジュニアゲートボール大会、全国社会人ゲートボール大会への積極的な参加に導いていく。

これら普及事業には、地域における指導者を活用しシニア層の積極的な参加を呼びかけるとともに、文部科学省と厚生労働省が共管する「放課後子どもプラン」の実施に向け、都道府県加盟団体と連携し市区町村教育委員会等に働きかけ、公認スポーツ指導員の活動の場を構築し、世代間交流の促進を図る。

また、ゲートボールの競技性にも着目し、全国大会の拡充はもちろん、長年の懸案である国民体育大会の正式競技・種目採用に向け、2 人制と 3 人制のゲームバリエーションや技能認定制度を活用しながら、関係諸機関に引き続き働きかけていく。

さらに海外への普及では、普及の兆しがある国や地域に指導員を派遣するとともに、海外交流大会への選手派遣、海外のジュニア愛好者の招聘など国際交流の促進も図っていく。

組織運営では、引き続き都道府県加盟団体の個人会員管理システムの構築を図るとともに、データの一元化をとおして、各種事務の合理化を図り管理費の節減に努めるほか、公益法人改革に対応するための準備を進める。

以上の諸事業を、文部科学省をはじめ関係諸機関のご協力を仰ぎ、加盟団体との協調連携のもと積極的に展開する。

## ・組織運営

### 1. 各種会議の開催

本連合の諸事業を円滑に実施するうえでの組織の充実を図るため、役員会および委員会を開催し、本連合の事業内容およびゲートボール界の方向性について審議を行う。さらに必要に応じ専門委員会に小委員会を設置し委員会の効率化を図る。また、加盟団体の事務担当者を対象とした事務担当者会議を開催し、事務担当者の資質のより一層の向上を目指す。

(1)理事会(年2回)

(2)評議員会(年2回)

(3)専門委員会(適宜)

#### 1)総務財政委員会

- ・財政問題について協議を行う。
- ・個人会員登録システムについて協議を行う。
- ・共済見舞金制度について協議を行う。
- ・加盟団体を含めたゲートボール界の組織運営について協議を行う。

#### 2)競技・審判委員会

- ・公式競技規則の運用および競技力・技術力の向上に関する研究、協議を行う。
- ・審判員制度の整備等について研究、協議を行う。
- ・国際審判員の養成および資格試験実施のための協議を行う。
- ・国民体育大会参加に向けた関連規程・大会運営等の研究・協議を行う。
- ・全国大会、審判員制度、審判員制服等の見直しのための協議を行う。

#### 3)普及指導委員会

- ・各種普及活動を企画し、円滑に推進するための協議を行う。
- ・愛好者の拡大のため、特にミドル層への普及のための協議を行う。
- ・指導員の活動に関する協議を行う。
- ・クラブの組織化、ミドル部会の運営について協議を行う。

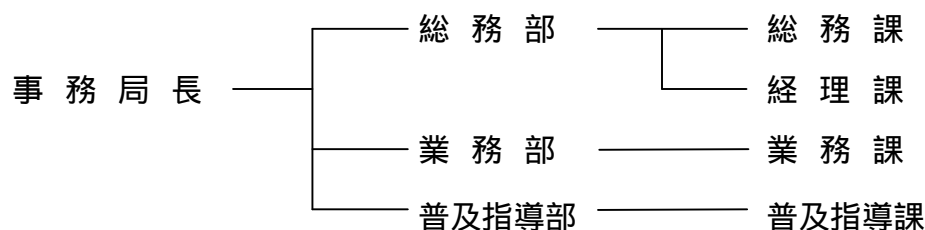
(4)事務担当者会議(年1回)

### 2. 規程等の制定および一部改正

円滑な業務運営を図るとともに現状に即した組織体制による事業運営のため、必要に応じ新しく規程等を制定し、または、既存の規程等を改正・廃止する。

### 3. 事務局

3部4課にて事務局を運営する。



#### . 事業内容

##### 1. ゲートボール普及活動の推進

本連合と加盟団体との連携を強化して、ジュニア、ミドル、シニアの各世代の普及策を推進する。特に、ミドルの普及部門ではミドル部会を設置してゲートボールのバリエーションゲームである2人制(リレーシオン2)、3人制(リレーシオン3)をとおしてジュニアとミドル愛好者の活動を促進するためのジュニアリーグとミドルリーグを展開する。

加盟団体は市区町村団体の「全世代型ゲートボールクラブ」(地域クラブ)の育成を促進し、地域クラブに「地域指導者」を配置して、具体的な普及策を展開する。

本連合は加盟団体の普及活動を支援するため、地域指導者および公認スポーツ(ゲートボール)指導者と連携し、ゲートボール愛好者の拡大を図る普及策や組織活性化のためのマネジメントを強化するとともに普及現場での積極的な活動を推進する。

また、本年度も引き続き、「地域いきいき広場(日本財団助成事業)」では、市区町村加盟団体の協力を得て、地域の多目的ゲートボール場「すぱーく」等においてゲートボール教室の他に多種目のイベントを融合した普及活動を展開するとともに、文部科学省と厚生労働省が連携して実施する「放課後子どもプラン」に参画し、市区町村加盟団体が行政(教育委員会及び福祉部局)と連携し積極的に取り組むことで、ゲートボールをキーワードとして地域社会に貢献する。

##### (1) 地域いきいき広場(日本財団助成事業:1,710万円)

全国103カ所の多目的屋内ゲートボール場「すぱーく」等を活用して「親子いきいきランド」を5カ所、「ゲートボール技能研修会」を4カ所(その内、2カ所はモデル校)で開催するとともに、加盟団体(「すぱーく」の設置されていない9加盟団体を含む)を対象に「親子ゲートボール教室」を3カ所で開催する。

「親子いきいきランド」では、競艇関係友誼団体の協力のもと、趣味、文化活動等を取り入れた幅広い事業を展開することで、地域で参加した親子が多種目のイベントを体験し、楽しみ、親子の絆を深めることを目的とする。また、これを機に、市区町村加盟団体と地域住民との交流を深め、「全世

代型ゲートボールクラブ」の育成強化を図る。

また、「ゲートボール技能研修会」では、ミドル世代の愛好者やモデル校の高校生を対象とした競技力向上の技能研修会を開催する。

(2) 地域指導者の育成(日本財団助成事業:1,190万円)

親学講座・スポーツ指導者及び行政担当者を講師として招聘して、加盟団体の地域指導者を対象にジュニア・ミドル世代の普及活動、スポーツマネジメント、地域クラブの育成等、加盟団体の普及活動を支援するための「地域指導者研修会」を全国4カ所で開催するとともに、審判員の技能向上を目的とした「競技指導者研修会」を全国4カ所で開催する。

また、ジュニア・ユースの指導者を育成するためにモデル校の担当教諭を対象に「モデル校セミナー」の開催やトップレベルの技能指導者を招集して競技力向上のための指導法について研究・協議を行う。

さらに、高校生から社会人までの主に大学生世代の愛好者を育成するため、「ジュニア・ユース交流会」を開催し、「ユース・ゲートボール連盟」の支援を行う。

(3) 普及のためのモデル校指定事業(240万円)

高等学校でのゲートボール普及を目指し、第7期目のモデル校指定事業を実施する。本事業は、これまで27校を指定し、指定校ではゲートボール活動の活性化が図られ、全国ジュニアゲートボール大会への出場など大きな成果を収めている。今後は、指定校でクラブ・同好会の育成を促すとともに、全国高等学校体育連盟への加盟に向け努力する。また、全国47加盟団体が高等学校への普及を促進することで、ジュニアへの普及を磐石なものとして、国民体育大会正式競技・種目化への環境づくりを整備する。

(4) ゲートボール技能認定制度の導入(823万円)

近年、海外選手の技能レベルが目覚しく向上しており、ゲートボール発祥国としてのわが国の技能レベルの維持向上は急務の課題となっている。

そこで、新たな愛好者の掘り起こしや目標設定を図り、技能レベルの維持や促進を図るため、技能認定制度を導入し、技術だけでなく指導者としても質の高い人材を育成する。

今年度は、IGS(Improve Gateball's Skill = ゲートボールの技能を磨く)検定の課題を検証しながら、実施手順等をマニュアル化して、モデル地域においてIGS検定を実施する。

(5) ゲートボール2人制・3人制の普及

近年、各地で実施されているゲートボール2人制および3人制の競技要領を統一し、新たに「リレーション2」、「リレーション3」として、ジュニア層やミドル層を中心に、新感覚の知的コミュニケーション・スポーツとして普及展開を図る。

(6) ルール座談会の開催(41 万円)

本連合の機関誌「ナイスパル」購読者を対象に、全国 4 か所においてルール座談会を開催し、ゲートボール愛好者の真のニーズを理解するため、疑問や要望等の生の声を聞くとともに意見交換を実施して、今後のルール改正や普及活動の礎とする。

(7) 「放課後子どもプラン」への参画・支援

本年度も、引き続き「放課後子ども教室」(文部科学省)、「放課後児童クラブ」(厚生労働省)にゲートボールが参画するため、市区町村加盟団体指導員を軸に地方行政への積極的な参画活動を推進するとともに、参画後はゲートボールをつうじて子どもの安全で健やかな居場所の確保、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを支援する。

(8) 国際交流活動(日本財団助成事業:2,100 万円)

本連合は世界ゲートボール連合とアジアゲートボール連合の事務局を任せ、海外への普及活動を展開してきたが、本年度も引き続きこの体制は継続される。今までは本連合からの助成により世界連合とアジア連合が海外普及活動を行っていたが、平成 19 年度からは本連合の事業の柱として位置づけ、普及活動の担い手となり世界への普及を牽引することになった。本年度も発祥国として積極的に役職員や指導者を海外派遣するとともに新たな普及国に対しての普及活動を支援する。

また、世界の加盟団体からジュニア世代のチームを受け入れ、「ジュニア国際交流会」を開催し、加盟団体の国際交流活動に寄与することとする。

(9) アジアゲートボール組織の充実・支援(日本財団助成事業:1,000 万円)

本年度は、「第 5 回アジアゲートボール選手権大会」がチュニニズタイプで開催されるため、国際審判員の派遣や大会運営のための支援を行う。また、公式記録を映像で残し後世の資料とする。

## 2. 審判員資格の認定事業

(1) 審判員資格試験の実施(2,056 万円)

各地域の審査委員会および加盟団体と連携し、審判員資格試験を実施する。

また、地域での「親子教室」、「初心者講習会」などとおして、ミドル層の受験者の拡大に努める。

(2) 審判員の登録と登録更新の実施(15,442 万円)

資格試験合格者の新規登録および有資格者の登録更新を行う。特に、加盟団体の協力を得て近年低下傾向にある更新率の向上に努める。さらには、平成 19 年度より実施した永年審判員制度の活用を図り、85 歳以上の審判員の更新率改善を図る。

(3) 国際審判員資格試験の実施(45 万円)

近年、各国・地域において国際交流大会が頻繁に行われ、ゲートボール競技の国際化が急速

に進んでいることから、国際審判員を養成するための資格試験を実施し海外普及活動に寄与する。

### 3. 大会の開催および地域大会等への支援

大会を開催することで、ゲートボール愛好者の競技力やスポーツマンシップの意識向上を図るとともに、全世代型スポーツとして各年齢層の多様なニーズに対応できるゲートボールの特性を広くアピールし、更なるゲートボールの普及振興を図る。また、ユニフォームの統一や、アンチドーピング思想の普及啓発を促し、日本発祥のゲートボールを世界レベルのスポーツとしてさらに発展させる。

#### (1) 全国大会の開催(8,668 万円)

##### 1) 笹川良一杯 第23回全国選抜ゲートボール大会(日本財団助成事業)

年代別・男女別の 4 クラスに区分し、体力等の格差を極力是正して競技を行うことにより、各年代・性別(クラス)ごとに交流を促進させ、競技レベルのさらなる向上を図る。

期 日 平成20年6月7日(土)・8日(日)  
開 催 地 北海道北見市  
会 場 留辺蘂町旭運動公園  
主 管 北海道ゲートボール連合  
参加チーム 192 チーム(4 クラス合計)

##### 2) 内閣総理大臣杯 第 25 回全日本世代交流ゲートボール大会(日本財団助成事業)

4 世代のチーム編成で競技を行うことにより、ゲートボールの長所の1つである世代間交流を促進させ、コミュニティスポーツとしてのゲートボールの意義をさらに深める。

期 日 平成20年7月20日(日)・21日(月)  
開 催 地 埼玉県熊谷市  
会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム  
主 管 埼玉県ゲートボール連盟  
参加チーム 48チーム

##### 3) 第13回全国ジュニアゲートボール大会(日本財団助成事業)

大会を通じて青少年の社会性や連帯感を育成するほか、ジュニアの育成・強化とモデル指定校同士の交流を図り、ジュニア層のさらなる充実を目指す。

期 日 平成20年7月20日(日)・21日(月)  
開 催 地 埼玉県熊谷市  
会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム  
主 管 埼玉県ゲートボール連盟

参加チーム 144チーム(3クラス合計)

世代交流大会とジュニア大会は、同日・同会場で開催する。

4) 第10回全国社会人ゲートボール大会(日本財団助成事業)

企業の余暇活動として、いつでも・どこでも・誰とでも楽しむことのできるゲートボールへの理解をさらに促し、企業スポーツとしてのゲートボールの確立を図る。

期 日 平成20年9月13日(土)・14日(日)

開 催 地 愛知県名古屋市

会 場 名古屋市瑞穂運動場 北陸上競技場

主 管 愛知県ゲートボール連盟

参加チーム 48チーム

5) 文部科学大臣杯 第24回全日本ゲートボール選手権大会

最優秀な代表チームを一堂に集め、真のチャンピオンシップ大会を開催することにより、競技スポーツとしてのゲートボールの訴求と充実を図る。

期 日 平成20年10月4日(土)・5日(日)

開 催 地 佐賀県佐賀市

会 場 佐賀県総合運動場 陸上競技場・球技場北

主 管 佐賀県ゲートボール協会

参加チーム 48チーム

(2) 地域大会等への支援(1,964万円)

1) 地域ゲートボール選手権大会

地域の実情に応じ、各地の愛好者のニーズに適した大会を開催することにより、ジュニア・ミドル・シニアの各世代や初心者など、多くの参加者を募ることができる交流の場を提供し、競技力の向上を図る。

対 象 : 地域協議会の選手権大会

2) 都道府県ゲートボール大会

全国大会に向けて予選会を実施することにより、加盟団体代表としての自覚と、全国大会への参加意欲の向上を図り、競技力の向上を目指すとともにゲートボールの競技性をアピールする。

対 象 : 加盟団体における、全国大会の予選大会

#### 4. 各種大会等の主管、後援、協力

官公庁・行政・自治体等の公的機関が開催する大会に協力し、更なるゲートボールの普及と生涯スポーツの振興に寄与する。

##### (1) 第 21 回全国スポーツ・レクリエーション祭

国民の生涯をつうじてのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起するために開催される、全国スポーツ・レクリエーション祭にゲートボールも参加する。競技は滋賀県ゲートボール連盟等の主管により加盟団体から 96 チーム(予定)が参加し実施される。

主 催	文部科学省、滋賀県、長浜市他
開催期日	平成 20 年 10 月 18 日(土)～20 日(月)
開催地	滋賀県長浜市

##### (2) 第 21 回全国健康福祉祭(ねんりんピック)

全国健康福祉祭は、高齢者の健康と生きがい、社会参加と世代間交流を目指す祭典であり、ゲートボール競技は日本連合が後援し、鹿児島県ゲートボール協会の主管により 47 都道府県および 17 政令指定都市から 192 チーム(予定)が参加し実施される。

主 催	厚生労働省、鹿児島県、(財)長寿社会開発センター他
開催期日	平成 20 年 10 月 25 日(土)～27 日(月)
開催地	鹿児島県霧島市

#### 5. ゲートボール用具の認定と関連品の推奨(69 万円)

ゲートボール競技が公正かつ安全に実施できるよう、ゲートボール用具認定規程・同実施要領にもとづき定められた認定基準に従い、検査に合格した用具を認定する。

また、日本ゲートボール認定用品工業会との連携を図り、同工業会の体制強化や用具認定規程の見直しを行いながら、愛好者のニーズに応じたゲートボール用品・用具の研究開発等を推進することにより、さらなるゲートボールの普及振興を図る。

#### 6. 国民体育大会の正式競技・種目採用への活動

ゲートボールが国民体育大会の正式競技・種目として参加することは、ゲートボール愛好者の悲願であり普及啓蒙には必要不可欠である。

現在、国民体育大会委員会では、「国体改革 2003」提言を受けて、2013 年から競技・種目の見直しが行われており、日本体育協会の「国体改革」に向け、加盟団体の協力を得て、日本中学校体育



連盟・ 全国高等学校体育連盟等のご指導を仰ぎ、 日本体育協会に働きかけを継続していく。

## 7. 賛助会員および協賛企業等の募集

経済情勢は好転しているといわれるが、各種企業・団体は依然支出を抑えている中で、本連合の事業に賛同いただける企業の協賛を募集し、各種事業の充実を図る。また、賛助会員と協賛企業の要望に応じた企画を立案し、賛助会員の維持・獲得を目指していく。

## 8. 共済見舞金事業(6,606万円)

愛好者が安心してゲートボールを楽しめるよう、ゲートボール愛好者の相互扶助にもとづき、所定の事故に対し見舞金を給付する。本年度より 5 万円以下の給付申請者に対して、公認書・診断書・事故証明書の添付を義務付けることにともない、給付金に 5,000 円を加算して給付する。

また、公益法人改革の動向を調査しつつ、加盟団体の協力を得て加入者の拡大と制度の整備を図る。

## 9. 功労者等の表彰(509万円)

ゲートボールの普及発展に顕著な功績のあった方、ゲートボールをつうじて永年健康保持に努められた方、および 10 年以上審判員登録し功労のあった方を、加盟団体の推薦により表彰する。また、会員の新規獲得や、連合の実施事業に対し総合的に顕著な業績を収めた団体を表彰する。

### 1)ゲートボール功労者の表彰

被表彰者	各加盟団体推薦	47 名
------	---------	------

### 2)健康功労者の表彰

被表彰者	各加盟団体推薦	約 300 名
------	---------	---------

### 3)審判員功労者の表彰

被表彰者	各加盟団体推薦	約 1,000 名
------	---------	-----------

### 4)加盟団体の表彰

被表彰団体	総合上位 3 団体 5 部門別上位 1 団体
-------	---------------------------

## 10. 加盟団体との連携強化

### (1)地域別審査委員会の開催(60万円)

審判員資格試験を円滑に実施するため、各地域で審査委員会を開催する。また、審査委員との連携を図り、審査法など試験制度のより一層の充実を図る。

(2) パソコンによる情報活用に関する支援

加盟団体において使用しているパソコンを活用したデータ管理やシステムの共有方法等について、依頼に応じた指導とデータの提供を実施するとともに、各種業務の合理化を支援する。

(3) 会員データの整備(1,100万円)

総務財政委員会の答申による「会員データシステム」構築のために、平成21年度からの加盟団体への導入に向け、システム内容の具体的な検討、モデル地区を定めての試験運用を行う。データ管理の一元化により日本連合と加盟団体事務局、双方の事務の省力化を目指す。

11. 広報活動および啓蒙活動

通信衛星放送による本連合の提供番組「JLCスーパーゲートボール」、機関誌「ナイスパル」、「日本連合公式ホームページ」を柱とし、平成20年度もこれらの媒体を積極的に活用し広報活動を展開していく。また、テレビ、新聞等マスコミ各社に対しても適宜ニュースリリース等を配信し、ゲートボールの多様な価値と役割、特に地域の活性化や高齢化社会におけるニーズ等を広く社会にアピールできるような情報の提供に努める。

(1) 通信衛星放送による普及啓蒙番組「スーパーゲートボール」の製作と放映

(1,000万円)(日本財団助成事業)

本年度も、全国大会の放映を中心に、コーナー番組を織り込みながら、年間30番組を新規制作し、再放送分を加えて毎日放映する。

期 間	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
制作・配信	(株)日本レジャーチャンネル
配 信 局	151局(平成19年4月現在)
回 数	365回(午前8:00～8:55)

(2) 機関誌発行事業(4,367万円)

ゲートボール界唯一の情報誌である機関誌「ナイスパル」を加盟団体の協力ならびに購読者の意見を参考として、より充実した内容の誌面づくりに取り組むとともに購読者の拡大に努力する。(発行日:毎月10日)

(3) ゲートボール情報発信・整備事業(43万円)

国内はもとより、海外にも広く普及しているインターネットホームページを活用し、ゲートボールをアピールする。また、公益法人として必要な情報公開を充実させ、関連団体・企業等とのリンク等諸種のニーズに対応した情報発信を行う。

(4) 刊行物・入門ツールの充実(748万円)

競技規則と審判実施要領の改正にともない、これに準拠した従来の出版物を刷新し発行する。また、技術本としての「上達ハンドブックシリーズ」を継続販売するとともに、作戦集としての「理想の一手」を新創刊する。さらに、普及啓蒙活動の一環として、競技要領を新たに制定した「リレーション」を含め、パンフレットやポスター等も発行する。

#### 1) 主な出版刊行物

公式ゲートボール競技規則2007、審判実施要領2007、ルールの解説『Q&A』2007、1・2級審判員資格試験想定問題集、3級審判員資格試験想定問題集  
ゲートボール上達ハンドブック(第1弾～第5弾)、理想の一手

#### 2) パンフレット・ポスター

レットライゲートボール、全世代型ゲートボールクラブの育成を目指して、  
普及用ポスター、リレーション 2&3 パンフレット

### 12. 国際大会への日本代表チーム及び国際審判員の派遣協力

#### (1) 第5回アジアゲートボール選手権大会

4年に1度開催されるアジアゲートボール選手権大会に、日本代表チーム・国際審判員の派遣協力を行う。

大会名	第5回アジアゲートボール選手権大会
主催	アジアゲートボール連合
主管	チャイニーズ・タイペイ槌球協會
期日	2008年5月23日(金)・24日(土)・25日(日)
開催地	中華台北彰化縣
会場	彰化縣立體育場 (CHANGHUA COUNTY STADIUM)
派遣数	48 チーム(各加盟団体1チーム+前回優勝チーム)予定 国際審判員の派遣数は、アジアゲートボール連合と協議中。

#### (2) 第4回釜山TreX-Games2008 / TAFISA GATEBALL COMPETITION

4年に1度開催されるTreX-Gamesにおいて、Sport for All部門に初採用されたTAFISA GATEBALL COMPETITIONに、日本代表チーム・国際審判員の派遣協力を行い、日本発祥のゲートボールが世界レベルのスポーツとしてさらに認知されるよう尽力する。

大会名	第4回釜山TreX-Games2008 / TAFISA GATEBALL COMPETITION
主催	The 4 <sup>th</sup> Busan TAFISA World Sport For All Games Organizing Committee

主 管 韓国国民生活体育全国ゲートボール聯合會  
期 日 2008年9月27日(土)・28日(日)・29日(月)  
開 催 地 大韓民国釜山市  
会 場 韓国において調整中  
派 遣 数 韓国において調整中

(3) 日本移民100周年記念国際親善ゲートボール大会

ブラジルに日本人が移民をはじめて100周年を迎えるのを記念して開催される国際親善大会に日本代表チームを派遣し、参加各国・地域との友好親善を深めるとともに、ゲートボール技能の向上を図る。

大 会 名 ブラジル日本人移民100周年記念国際親善ゲートボール大会  
主 催 ブラジルゲートボール連合  
後 援 在サンパウロ日本国総領事館、ブラジル日本文化福祉協会、他  
(予定)  
期 日 2008年7月4日(金)・5日(土)・6日(日)  
開 催 地 ブラジル国サンパウロ市  
会 場 ブラジルゲートボール連合ゲートボールスタジアム  
派 遣 数 ブラジルゲートボール連合と調整中

(4) 全カナダゲートボール連盟設立20周年記念国際親善ゲートボール大会

全カナダゲートボール連盟が設立20周年を記念して国際親善大会を開催することから、日本から代表チームを派遣し、参加各国・地域との友好親善を深めるとともに、ゲートボール技能の向上を図る。

大 会 名 全カナダゲートボール連盟設立20周年記念  
国際親善ゲートボール大会  
主 催 全カナダゲートボール連盟  
期 日 2008年7月26日(土)・27日(日)  
開 催 地 カナダ国バンクーバー州リッチモンド市  
会 場 リッチモンド市内  
派 遣 数 全カナダゲートボール連盟と調整中

(5) その他、各国・地域で開催される国際大会に日本代表チーム及び国際審判員の派遣協力を行い、国際親善の促進に努める。